

「幕電」

「終電」は最終電車、「祝電」はお祝いの電報、「停電」は電力供給の停止、「江ノ電」は江ノ島電鉄、「でんでんむし」はカタツムリです。では「幕電(まくでん)」というのをご存知でしょうか? よほど気象に詳しい方でないと聞いたこともない用語だと思います。

「幕電」は雷の一種——正確には「雷の見え方の一種」です。雷の基本は「電光(稲妻)と雷鳴」のセットです。(シュトラウスのポルカにそういう名前がありましたっけ・・・) 電光は雲や大気中(時には火山灰中)の放電現象、雷鳴は「放電に伴う急激な温度上昇による空気膨張」で起きる「衝撃波」の一種です。

電光のほうは、30km 先のものも見えますが、雷鳴のほうは、普通雷雲(積乱雲)が観測者の 15km 以内に近づかないと聞こえません。つまりピカッと光るけど、音は聞こえない・・・というちょっと不気味な現象も起き得ます。積乱雲が遠くにあったり、近くでも雲の内部で放電が起きていると、電光に雲全体が照らされて、クリスマスのサンタの飾りのように、内側から光ることがあります。これが「幕電」です。



「幕電の仕組みの科学的図解」 ニセ気象学者 ジミー・田中氏画

鹿沢高原（孺恋村西部）から北軽井沢（長野原町南部）にかけては、長野県側で発生した優勢な雷雲（積乱雲）の通り道になっています（「雷銀座」の一部）。夏は幕電が毎日のように見られます。時には遠くの雷の反映が、頭上の雲に反映することもあります。そういう状態も「幕電」といいます。私は「雷ファン」（そういうなまえの雑誌があったら、買う、きっと。）なので、こういう大気放電現象の観察が大好きです。



「幕電」 私の山荘の裏にある真っ暗な森の背後の空が、一瞬光ります。巨大な積乱雲が紫色に光って見えるのです。本当に一瞬（一回約 100 分の 1 秒）です。非常に幻想的な光景です。同時に、地球大気の圧倒的な力に、恐怖も感じます。遠くの雷鳴が聞こえたので、パジャマ姿のまま飛び出して撮影。北軽井沢。

（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）